

講壇点滴

神の祝福を受ける

使徒言行録第三章一―二六節

牧師 姜 倮 米

第三章のこの箇所は、第二章のペンテコステの出来事と、いろいろな点で共通しています。第二章と第三章は、話の構造も同じです。まず、聖霊の働きによって驚くべき奇跡が行われます。ペトロは一二節で、この癒しは私たちが自分の力や信心によってなしたことではないと言っています。彼らは、ペンテコステの出来事において、聖霊を受け、聖霊の力に導かれて主イエスを宣べ伝えているのです。その歩みの中でこの癒しも行われたのですから、この癒しの業も聖霊のお働きによることです。しかし、第二章と第三章の説教では違うところもあります。第三章の説教は、足の不自由だった人の癒しの出来事を受けて語られています。このことから来ています。その癒しをもたらしたのとは何かが一六節に語られています。「イエスの名が彼を強くした」「イエスの名を信じる信仰」によって彼は癒された、その信仰は「イエスによる信仰」とも言い換えられています。「イエスの名」と、「その名を信じる信仰」と、「イエスによる信仰」は同じことを言っています。この癒しの業は、主イエス・キリストの力によってなされたのだということが強調されているのです。

教会で起る救いの業、私たちが、また救いを求めて教会に来る人々があずかる恵みは、主イエス・キリストによる救いであり恵みであって、それ以外ではありません。礼拝で私たちがあずかるのは、主イエス・キリストによる救いの恵みなのです。それ以外のものを求めて来ても、それは叶えられません。足の不自由だった人がそうであったように、主イエス・キリストの名によって、本当に必要な救いが与えられるのです。彼はペトロたちに施しを求めました。その日の生活を満たすためのお金を求めたのです。しかし主イエスのみ名によって与えられたのは、立ち上がり、歩けるようになること、彼の苦しみの根本的な解決でした。ペンテコステの出来事が教会の歩みにおいて繰り返され、聖霊の力が注がれるところに、この主イエスのみ名による根本的な救いが、私たち一人ひとりに、それぞれ置かれた状況の中で起るのです。

主イエスの再臨によって、この世は終わります。その終末の到来がここに語られています。そしてペトロはそれを「主のもとから慰めの時が訪れ」と言っています。世の終わり、主イエスの再臨は、「慰めの時」の到来です。そこで私たちの救いが完成するのです。神様の祝福が完成するのです。そこに私たちに与えられている希望があります。その希望を見つめながらこの世を歩むのが私たちの、教会の信仰の歩みです。それが、洗礼を受け、教会の一員となった者の歩みです。

(九月二四日 公同礼拝)

第三主日(一月十五日) 公同礼拝

「主のされる献金」

高橋和人牧師

出エジプト 三〇・一二―一六

マタイ 一七・二二―二七

第四主日(一月二十二日) 公同礼拝

「自分を低くして」

高橋和人牧師

詩編 二二・七―二二

マタイ 一八・一―二二

第五主日(一月二十九日) 公同礼拝

「思い切つて大胆に語る」

姜 倮米牧師

詩編 二・一―二

使徒言行録 四・二三―三二

一月講壇一覽

第一主日(一月五日) 公同礼拝

「小さな者への御心」

高橋和人牧師

エゼキエル 三四・一一―一六

マタイ 一八・一〇―一四

第二主日(一月十二日) 公同礼拝

「教会の言うこと」

高橋和人牧師

詩編 九四・一六―二三

マタイ 一八・一五―二〇

第三主日(一月十九日) 公同礼拝

「憐みの返済」

高橋和人牧師

申命記 二四・一〇―一五

マタイ 一八・二二―三五

第四主日(一月二十六日) 公同礼拝

「すべてを共有する」

姜 倮米牧師

詩編 八三・一九

使徒言行録 四・三三―三五・一一